

医薬分業・医薬品等の適正使用

第1 現状（これまでの成果）と課題

1 医薬分業

- 医薬分業とは、医師と薬剤師がそれぞれの専門分野で業務を分担し、医療の質的向上を図るもので、医師が患者に処方せんを交付し、薬局の薬剤師がその処方せんに基づき調剤を行うことで、患者の服薬情報の一元的・継続的な把握とそれに基づく薬学的管理・指導を実施し、有効かつ安全な薬物療法の提供をするものです。
- 医薬分業の推進により、処方せん受取率は徐々に上昇しているところですが、患者は受診した医療機関ごとにその近くの薬局で調剤を受ける機会が多いことから、服薬情報の一元的・継続的な把握などの医薬分業のメリットは必ずしも機能しておらず、患者本位の医薬分業になっていません。
- 厚生労働省は平成27年（2015年）10月、医薬分業の原点に立ち返り、地域包括ケア等への貢献や健康サポート機能の充実に向けて、すべての薬局を患者の服薬情報の一元的・継続的な把握等の機能を果たす「かかりつけ薬局」へ再編するため、「患者のための薬局ビジョン」を策定し、患者本位の医薬分業の実現に向けた道筋を示しています。

（1）分業率の推移

- 長野県における医薬分業は定着しつつあり、平成27年度（2015年度）に分業率（処方せん受取率）は70%を超え、全国の分業率も上回っています。

【表1】分業率の推移

（単位：％）

| 年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 長野県 | 64.1 | 65.9 | 68.6 | 70.3 | |
| 全国 | 66.1 | 67.0 | 68.7 | 70.0 | |

（日本薬剤師会調べ）

（2）休日・夜間における処方せんの受入体制

- 休日における処方せんの受入体制は、多くの地区で当番制により対応していますが、夜間の受入体制は、個々の薬局で対応している地区が多い状況です。

【表2】休日・夜間の処方せん受入体制（平成29年3月現在）

| 地区 | 長野 | 北信 | 更埴 | 上田 | 小北 | 佐久 | 松本 |
|----|-----------------|----------------------------|-----|-------------|-----------------|---------|---------------|
| 休日 | 当番制 (9～18時) | 個々の薬局対応、一部当番制 (中野・須坂地区) | 当番制 | 当番制(24時間体制) | 当番制 (～23時) | 当番制 | 当番制 (～19時) |
| 夜間 | 当番制 (18～22時) | 個々の薬局対応 | 当番制 | 当番制(24時間体制) | 当番制 (19～23時) | 個々の薬局対応 | 当番制 (～22時) |

| | | | | | | | |
|----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------------|
| 地区 | 木曾 | 大北 | 安曇野 | 岡谷 | 諏訪 | 上伊那 | 飯伊 |
| 休日 | 個々の薬局 対応 | 当番制 | 当番制 | 当番制 | 当番制 | 当番制 | 当番制 |
| 夜間 | 個々の薬局 対応 | 個々の薬局 対応 | 個々の薬局 対応 | 個々の薬局 対応 | 個々の薬局 対応 | 個々の薬局 対応 | ～22:30 休日 夜間診療所 |

(長野県薬剤師会調べ)

(3) 薬局・医薬品販売業者数及びその推移

- 近年、健康に対する意識・関心の高まりから、「セルフメディケーション」の考え方が見られるようになってきており、軽度な身体の不調の改善等を目的として、身近な薬局・薬店で購入できる一般用医薬品（OTC医薬品）を利用する機会が増えています。
- 県内の薬局・医薬品販売業に従事する薬剤師とともに、一般用医薬品の販売に従事する登録販売者が、県民のセルフメディケーションの推進に寄与しています。

【表3】 薬局・医薬品販売業者数（平成29年3月31日現在）

| 保健福祉事務所 保健所 | 佐久 | 上田 | 諏訪 | 伊那 | 飯田 | 木曾 | 松本 | 大町 | 長野 | 北信 | 長野市 | 県外 | 合計 |
|----------------|-----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 薬局 | 108 | 105 | 88 | 74 | 63 | 10 | 189 | 24 | 71 | 41 | 178 | - | 951 |
| 店舗販売業 | 38 | 49 | 39 | 38 | 32 | 12 | 89 | 14 | 36 | 21 | 87 | - | 455 |
| 配置販売業 | 2 | 10 | 3 | 9 | 7 | 1 | 16 | 2 | 9 | 2 | 20 | 118 | 199 |

(薬事管理課調べ)

【表4】 薬局・医薬品販売業者数の推移

| 年 度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 薬 局 | 892 | 929 | 946 | 951 | 951 |
| 店舗販売業 | 396 | 419 | 432 | 443 | 455 |
| 配置販売業 | 241 | 233 | 224 | 208 | 199 |
| 合 計 | 1,529 | 1,581 | 1,602 | 1,602 | 1,605 |

(薬事管理課調べ)

【表5】 薬局・医薬品販売業に従事する薬剤師数・登録販売者数及び配置従事者数（平成29年3月31日現在）

| 保健福祉事務所 保健所 | 佐久 | 上田 | 諏訪 | 伊那 | 飯田 | 木曾 | 松本 | 大町 | 長野 | 北信 | 長野市 |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|
| 薬剤師 | 387 | 514 | 327 | 258 | 243 | 16 | 868 | 99 | 296 | 139 | 871 |
| 登録販売者 | 224 | 370 | 224 | 180 | 145 | 46 | 417 | 73 | 185 | 111 | 447 |
| 配置従事者 | 22 | 49 | 21 | 51 | 41 | 3 | 66 | 8 | 25 | 10 | 69 |

(注) 1 薬剤師及び登録販売者で複数の店舗に従事する者については、保健福祉事務所・保健所の各々の欄に重複し計上している。

2 県外で配置従事者身分証明書を発行して、県内で販売従事している者は含まない。

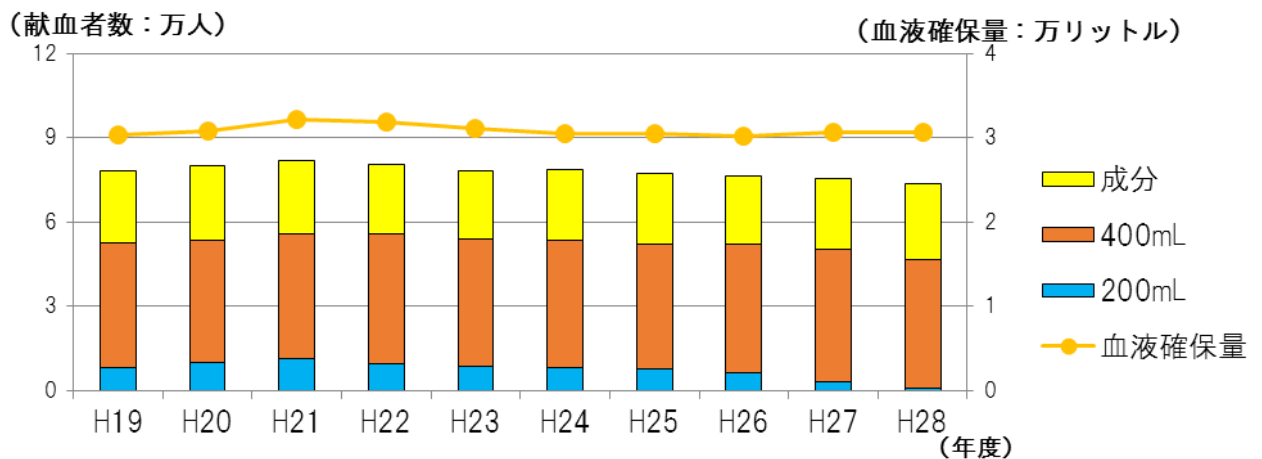
(薬事管理課調べ)

2 血液の供給確保

(1) 必要な血液の確保

- 医療技術の進展や血液製剤を必要とする割合の高い世代が増加傾向にある一方、献血可能な年齢層の人口は減少傾向にあり、必要となる血液製剤を確保するための献血者の確保が重要な課題となっています。
- 本県の献血者数は全体として減少傾向にあり、若い世代の30代までについては大幅に減少しており、将来の献血を担う若年層の献血者を確保する必要があります。

【図1】長野県の献血者数及び献血量の推移



(薬事管理課調べ)

【表6】年代別献血者数の推移

| | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 対24年度比 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 10代(16～19歳) | 3,368 | 3,665 | 3,121 | 2,464 | 2,229 | △33.8% |
| 20代 | 12,973 | 12,776 | 11,900 | 11,212 | 10,908 | △15.9% |
| 30代 | 18,670 | 17,086 | 15,454 | 14,621 | 13,519 | △27.6% |
| 40代 | 23,567 | 23,181 | 23,474 | 23,252 | 22,544 | △4.3% |
| 50代以上(50～69歳) | 20,148 | 20,699 | 22,332 | 23,811 | 24,227 | +20.2% |
| 合計 | 78,726 | 77,407 | 76,281 | 75,360 | 73,427 | △6.7% |

(薬事管理課調べ)

(2) 血液製剤の適正使用

- 供給された血液製剤を有効に活用するために、血液製剤の使用適正化を一層推進する必要があります。

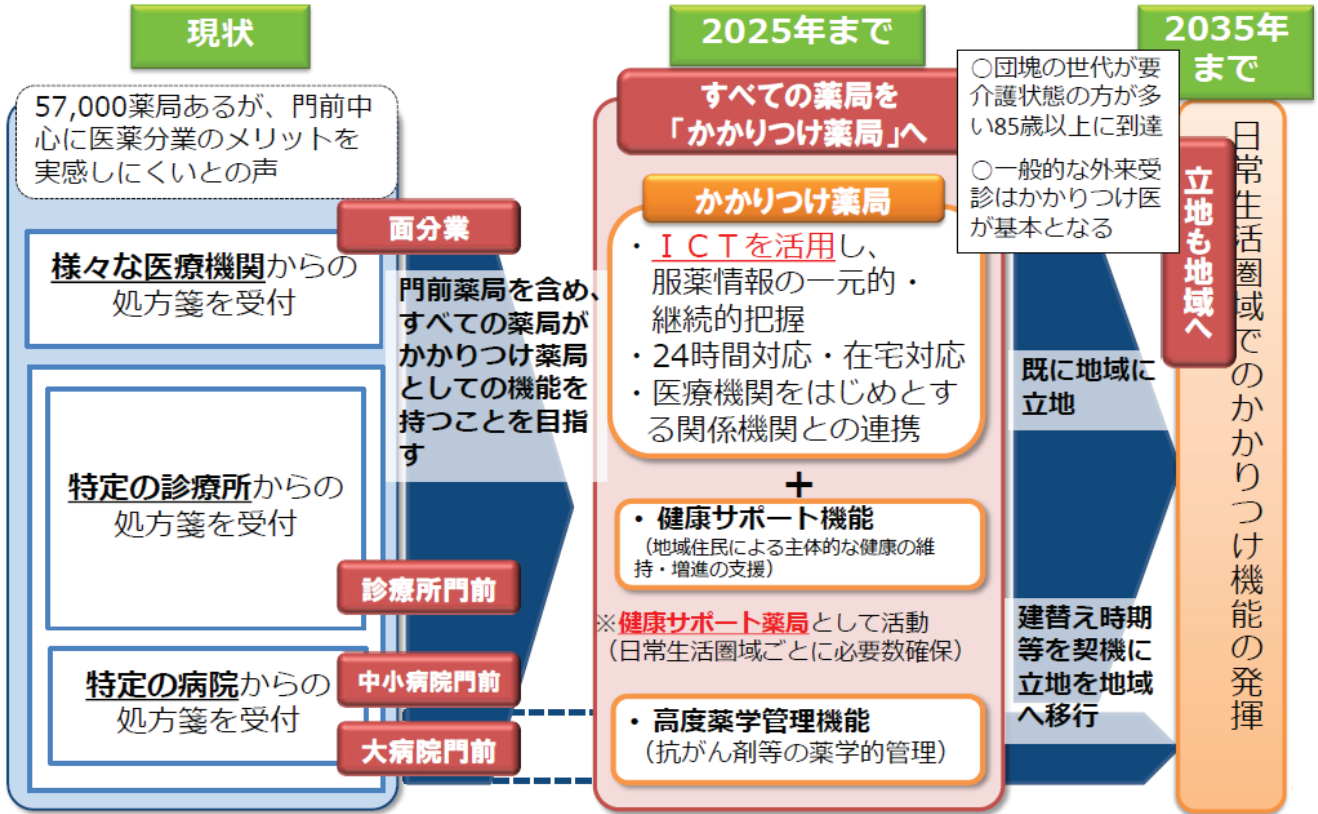
【表7】輸血用血液製剤の供給量及び使用量(平成27年)

| | 供給量 | 使用量 | 使用割合 |
|----------|------------|------------|-------|
| 赤血球製剤 | 90,805 単位 | 82,597 単位 | 91.0% |
| 血小板製剤 | 119,390 単位 | 113,610 単位 | 95.2% |
| 新鮮凍結血漿製剤 | 30,063 単位 | 28,898 単位 | 96.1% |

(長野県献血推進協議会輸血療法部会調べ)

薬局再編の全体像

～ 立地 から 機能 へ～



「患者のための薬局ビジョン」

～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～

